

六月日

散位橋

謹上博士判官殿

〔源平盛衰記^{十五}〕宇治合戰附賴政最後事

平家ノ方ヨリ惡キ法師ノ振舞哉サノミ一人ニ多者討レタルコソ安カラテトテ、シコロヲ傾テ、ナガヘヲ指出タル兵アリ、明春是ヲ見テ、面白シ、東門五色ノ熟瓜ゾヤトテ、甲ノ鉢ヲ打破テ、喉笛マデ打サカント打タリケルニ、太刀モコラヘズシテ、目貫穴ノモトヨリ折ニケリ、太刀ハ折タレ共、甲モ頭モ打破レテ、眞逆ニ川中ヘゾ落ニケル、

〔山槐記〕治承四年八月十一日辛卯、巳刻出守部、午刻著西宮、暫休息未、知出西宮、申終刻著福原宿所、依窮屈今日不參、參告參入之由、於頭辨、自大理許被送五色、

〔吾妻鏡^{十一}〕建久二年八月一日丁丑、今日大庭平太景能、於新造御亭獻酒盃、其儀強不極美、以五色鱸魚等爲肴物、

〔古今著聞集^十〕^八曉行法印人の許へまかりたりけるに、瓜を取出たりけるが、わろく成て水ぐみたりければよめる、

山しろのほぞちと人やおもふらん水くみたるはひさごなりけり

季經卿泰覺法印がもとへ、瓜をつがはして、此瓜くいて、これがかはりには、此般若かきとて、料紙一兩卷をくりたりける返事に、

なめ見つる五色の色のあちはひもきはだの紙ににがくなりぬる

〔梵舜日記〕慶長二年六月十八日、幽齋女房衆爲見廻、^{マク}瓜^音信也

〔執政所抄^下〕^七月^{十六}日
天台熟瓜會事